

# 舢倉島の海女 生活克明に

舢倉島(輪島市)の海女の昭和初期の生活に関する調査結果をまとめた貴重な論文と写真を、民俗学に詳しい珠洲市飯田町の西勝寺住職西山郷史さん(69)が発見した。論文が作成された当時、県内には掲載するような雑誌は存在しておらず、西山さんは「幻の論文といえる」と詳細な分析に取り組んでいる。(近江士郎)



論文中に使われた「飯田二七の市に於ける販売中の海女」の写真原本。西山郷史さん提供

## 昭和初期の調査記す 珠洲の西山さん、論文発見

西山さんによると、論文を作成したのは元小松市教育長矢原珠美子さん(80)の父沖谷忠幸さん。沖谷さんは一九〇七(明治四十)年に小松市で生まれ、三九(昭和十四)年に三十二歳で亡くなった。二九年八月から三七年四月まで、飯田高等女学校(現飯田高校)で教壇に立っていた。

沖谷さんは同校在任中に結婚し西勝寺で生活していた。この時に珠美子さんが誕生したこともあり、西山さんは珠美子さんに、飯田高校九十周年記念誌に掲載された、沖谷さんの調査に同行したと書かれた教え子の回想文のコピーを送付。この回想文をきっかけに、保管された論文があるはずとの話が持ち上がり、今月に入って見つかった。

論文は四百字詰め原稿用紙三十枚分ほどで、二十八歳の時に書かれている。海の荒れる冬場に外浦側から内浦側へと移動する「灘廻り」とその時期や販売圏、商品、販売状況など六項目

に分け記録されている。論文に使われた「飯田二七の市に於ける販売中の海女」など写真の原本三枚も見つかった。西山さんは「見たこともない写真。珠美子さんは、何の写真だろうと思いついてきたようだ」と説明する。

西山さんは「論文から、漁業と農業が、能登のエリアできちんと行き来していたことが分かり、現在は消えてしまった地域経済の基本がみえてくる」とし「(沖谷さんは)早くに亡くなったため知られていないが、素晴らしいものを残していた」と話した。